

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	佐世保工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科			3	4	7	7	
	電気電子工学科				4	7	7	
	電子制御工学科				4	7	7	
	物質工学科				4	7	7	
	複合工学専攻				8	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.sasebo.ac.jp/departmentsyllabus/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	佐世保工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/yakuin.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2026 年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理 工学府長・研究院長	2024年4月 1日～2026 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2026 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	佐世保工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
非常勤講師を含む全教員が、担当科目の授業計画(授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、その他の事項を記載)を作成し、教務主事並びに各学科の教務主事補等により内容を確認の上、年度初めにウェブサイトにて公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.sasebo.ac.jp/department/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各授業科目のシラバスには以下の項目が記載されている。 科目基礎情報、到達目標、ルーブリック(評価基準)、学科の到達目標項目との関係 教育方法等(概要、授業の進め方・方法、注意点)、授業計画、評価割合 教員はシラバスの記載事項に則り、適切に授業を行い、各学生の学修成果を把握している。また、年度末に開催される進級判定会議等において「佐世保工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則」に規定された条件を満たしているかを審議し、適切に学修成果の評価を行い、単位を認定している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

平均点及び順位付けのルールについては、以下のとおりである。

(本科)

1. 順位付けに用いる科目群

前期末では、前期並びに通年開講され、前期末に成績が提出されている科目を対象とする。

また、前期末の順位付けにおいて、後期に追試験を行った結果は、後期末の成績に反映される。

後期末では、後期並びに通年開講され、後期末に成績が提出されている科目を対象とする。

上記において、通年開講される科目とは、前期に開始し、後期に終了する科目を指す。

2. 順位付けに用いるスコア

前記した前期履修科目および後期履修科目（通年開講科目を含む）それぞれについて、当該学生の評価点の平均を順位付けのためのスコアとする。評価点の平均は小数点以下第2位を四捨五入する。

3. 順位の決定方法

各学科・各学年において、上記のスコアの値の大きい者を上位とする。スコアが同点の場合は同順位とする。なお、留学生並びに休学者は順位決定の対象外とする。

4. 対象除外の科目

特別活動

(専攻科)

1. 順位付けに用いる科目群

前期末では、1年次においては前期に開講されている科目を対象とし、2年次においては上記に加え、1年次に修得した科目も対象とする。

後期末では、1年次においては前期に修得した科目、通年開講されている科目、後期に開講されている科目を対象とする。2年次においては上記に加え、1年次に修得した科目も対象とする。

上記において、通年開講される科目とは、前期に開始し、後期に終了する科目を指す。

2. 順位付けに用いるスコア

前記した前期履修科目および後期履修科目（通年開講科目を含む）それぞれについて、当該学生の評価点の平均を順位付けのためのスコアとする。評価点の平均は小数点以下第2位を四捨五入する。

3. 順位の決定方法

各学年において、上記のスコアの値の大きい者を上位とする。スコアが同点の場合は同順位とする。なお、休学者は順位決定の対象外とする。

◇順位付けは専攻（系）ごとに行っており、全専攻での順位付けは行っていない。

4. 対象除外の科目

他機関において受講した科目

◇他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則により、認定科目として成績を評価しているため。

成績通知表は全学生に配布され、各自の「学習の記録（冊子）」に保管することで、1年次からの通知表を確認することができる。通知表には、各科目評定並びにクラス平均点、成績の総点、平均点、学級平均点、学級順位が掲載されており、学生自身が自分の成績がクラスのどの位置にあるかを把握することができる。

また、学年ごとの各試験成績の推移を自身で記入し、反省点を次年度以降の学習計画に活かしている。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.sasebo.ac.jp/education/sprt-higher-ed/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本科のディプロマ・ポリシー (卒業認定の方針)

■機械工学科

次に示す能力を修得し、規定の基準を満たした学生に対して、卒業を認定する。

- 1) 科学に関する基礎を理解し、計算あるいは説明することができる。
- 2) 論理的に思考し、意見をわかりやすく日本語および英語で表現することができる。
- 3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち、他者と協働することができる。
- 4) 幅広く自ら学び・考え、地域と世界の課題に対して積極的に取り組むことができる。
- 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで、様々なデータを処理・分析できる。
- 6) ものづくりの基盤となる機械工学に関連する知識・理論を課題解決に利用できる。
- 7) ものづくりの基盤となる機械工学に関連する知識・技術を活用し、多面的視点から社会の課題に取り組むことができる。

■電気電子工学科

次に示す能力を修得し、規定の基準を満たした学生に対して、卒業を認定する。

- 1) 科学に関する基礎を理解し、計算あるいは説明することができる。
- 2) 論理的に思考し、意見をわかりやすく日本語および英語で表現することができる。
- 3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち、他者と協働することができる。
- 4) 幅広く自ら学び・考え、地域と世界の課題に対して積極的に取り組むことができる。
- 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで、様々なデータを処理・分析できる。
- 6) 社会基盤技術を支える電気・電子・情報工学に関連する知識・理論を課題解決に利用できる。
- 7) 社会基盤技術を支える電気・電子・情報工学に関連する知識・技術を活用し、多面的視点から社会の課題に取り組むことができる。

■電子制御工学科

次に示す能力を修得し、規定の基準を満たした学生に対して、卒業を認定する。

- 1) 科学に関する基礎を理解し、計算あるいは説明することができる。
- 2) 論理的に思考し、意見をわかりやすく日本語および英語で表現することができる。
- 3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち、他者と協働することができる。
- 4) 幅広く自ら学び・考え、地域と世界の課題に対して積極的に取り組むことができる。
- 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで、様々なデータを処理・分析できる。
- 6) 安心・安全な情報化社会を創出するデータサイエンス、および、電子制御技術に関連する知識・理論を課題解決に利用できる。
- 7) 安心・安全な情報化社会を創出するデータサイエンス、および、電子制御技術に関連する知識・技術を活用し、多面的視点から社会の課題に取り組むことができる。

■物質工学科

次に示す能力を修得し、規定の基準を満たした学生に対して、卒業を認定する。

- 1) 科学に関する基礎を理解し、計算あるいは説明することができる。
- 2) 論理的に思考し、意見をわかりやすく日本語および英語で表現することができる。
- 3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち、他者と協働することができる。
- 4) 幅広く自ら学び・考え、地域と世界の課題に対して積極的に取り組むことができる。
- 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで、様々なデータを処理・分析できる。
- 6) 生活を豊かにする物質をうみだす応用化学、および、バイオテクノロジーに関連する知識・理論を課題解決に利用できる。
- 7) 生活を豊かにする物質をうみだす応用化学、および、バイオテクノロジーに関連

する知識・技術を活用し，多面的視点から社会の課題に取り組むことができる。 専攻科のディプロマ・ポリシー（修了認定の方針） ■複合工学専攻 複合工学専攻は，グローバル化した社会において，高度化，複合化した工学分野の諸問題を解決して「もの創り」を行うために，各専門分野（機械工学，電気電子工学，情報工学，化学・生物工学）について深い専門性を養いつつ，先進的な他の専門分野の知識と技術も身につける複合的な教育を行うことにより，複眼的な問題解決能力を備えた創造性豊かな，世界に通用する「もの創り技術者」を育成する。このような人材育成を達成するために，本校に在籍し，所定の単位を修得し，かつ，以下のような能力を身につけた学生に対して，修了を認定する。 (A) 工学の基礎および専門分野に関する知識を身につけ「もの創り」に応用できる。 (B) 地球的視点でものごとを考える素養および能力と，科学技術が自然や社会に及ぼす影響を理解できる人間としての倫理観を有する。 (C) 日本語による技術的な内容の説明・討論ができ，更に国際社会を意識した英語によるコミュニケーション基礎能力を有する。 (D) 他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識を身につけ，複合化・高度化した工学分野について複眼的に課題探求や問題解決ができる。 (E) 自主的・継続的に学習でき，学内外の人々と協調して行動できる。 上記ディプロマ・ポリシーに則り、年度末に開催される卒業判定会議において「佐世保工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則」に規定された要件を満たしているかを審議し、適切に卒業を認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.sasebo.ac.jp/about-us/diploma-policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	佐世保工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和7年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.sasebo.ac.jp/about-us/gaibu-hyouka/

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法 : <https://www.sasebo.ac.jp/about-us/ninsyo-hyouka/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.sasebo.ac.jp/kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikannsurukisoku.pdf)
(概要) 一 材料力学・機械力学・熱力学・流体力学という 4 つの力学科目の習得を通して、機械工学系技術者としての基礎能力を養成する。 二 機械工作、機械材料、機構、設計などのものづくり技術関連分野に加え、制御工学や電気・電子工学分野などのメカトロニクス技術関連分野の習得により、機械装置・機械システムの設計開発能力を養成する。 三 ものづくりの基盤となる機械製図や機械工作実習、機械工学実験を通して実践力を育み、卒業研究では自学自習能力の向上とともに、総合的な課題解決能力および技術開発能力を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.sasebo.ac.jp/about-us/diploma-policy/)
(概要) 次に示す能力を修得し、規定の基準を満たした学生に対して、卒業を認定する。 1) 科学に関する基礎を理解し、計算あるいは説明することができる。 2) 論理的に思考し、意見をわかりやすく日本語および英語で表現することができる。 3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち、他者と協働することができる。 4) 幅広く自ら学び・考え、地域と世界の課題に対して積極的に取り組むことができる。 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで、様々なデータを処理・分析できる。 6) ものづくりの基盤となる機械工学に関連する知識・理論を課題解決に利用できる。 7) ものづくりの基盤となる機械工学に関連する知識・技術を活用し、多面的視点から社会の課題に取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.sasebo.ac.jp/about-us/curriculum-policy/)
(概要) 国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラムに準拠した体系的なカリキュラムを構成する。 各科目の到達目標・授業方法・授業計画・評価方法を Web シラバスにより公開し、学修の成果は、後に定める基準により評価する。 1) 科学に関する基礎を理解し、計算あるいは説明する力を育成するために、数学・自然科学系科目を設ける。 2) 論理的に思考し、意見をわかりやすく日本語および英語で表現する力を育成するために、人文科学系科目を設ける。 3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち、他者と協働する力を育成するために、社会科学系科目を設ける。 4) 幅広く自ら学び・考え、地域と世界の課題に対して積極的に取り組む力を育成するために、総合的科目を設ける。 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで、様々なデータを処理・分析する力を育

成するために、数理情報系科目を設ける。 6) ものづくりの基盤となる機械工学に関連する知識・理論を利用し、課題解決する力を育成するために、機械系工学科目を設ける。 7) ものづくりの基盤となる機械工学に関連する知識・技術を活用し、多面的視点から社会の課題に取り組む力を育成するために、機械系工学実験を設ける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.sasebo.ac.jp/about-us/admission-policy/）
（概要） 機械工学科では、次のような人材を求めます。また、4年次編入学の場合は以下に準じます。 1) 自然現象に対して好奇心が強く、ものづくりの好きな人 2) 機械に興味をもち、機械に関する専門知識と技術を習得したい人 3) 基礎学力を有し、それらを活用して論理的に思考し、表現できるようになりたい人 4) 技術者として人類の幸福に貢献したり国際的に活躍したい人

学部等名 電気電子工学科
教育研究上の目的(公表方法:https://www.sasebo.ac.jp/kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikannsurukisoku.pdf)
（概要） 一 電気回路や電磁気学などの工学系基礎科目の習得を通して、電気電子系技術者としての基礎能力を養成する。 二 電気工学、電子工学および情報通信工学の三分野の幅広い技術を教授し、エネルギー・エレクトロニクス・コンピュータ分野で課題を追及・解決できる能力を養成する。 三 電気電子情報工学実験や実習などの実践的学習を通して、計画・遂行・データ解析・工学的考察および説明能力を育み、卒業研究においては技術開発能力を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.sasebo.ac.jp/about-us/diploma-policy/）
（概要） 次に示す能力を修得し、規定の基準を満たした学生に対して、卒業を認定する。 1) 科学に関する基礎を理解し、計算あるいは説明することができる。 2) 論理的に思考し、意見をわかりやすく日本語および英語で表現することができる。 3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち、他者と協働することができる。 4) 幅広く自ら学び・考え、地域と世界の課題に対して積極的に取り組むことができる。 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで、様々なデータを処理・分析できる。 6) 社会基盤技術を支える電気・電子・情報工学に関連する知識・理論を課題解決に利用できる。 7) 社会基盤技術を支える電気・電子・情報工学に関連する知識・技術を活用し、多面的視点から社会の課題に取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.sasebo.ac.jp/about-us/curriculum-policy/）
（概要） 国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラムに準拠した体系的なカリキュラムを構成する。 各科目の到達目標・授業方法・授業計画・評価方法を Web シラバスにより公開し、学修の成果は、後に定める基準により評価する。 1) 科学に関する基礎を理解し、計算あるいは説明する力を育成するために、数学・自然科学系科目を設ける。 2) 論理的に思考し、意見をわかりやすく日本語および英語で表現する力を育成するために、人文科学系科目を設ける。

3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち、他者と協働する力を育成するために、社会科学系科目を設ける。 4) 幅広く自ら学び・考え、地域と世界の課題に対して積極的に取り組む力を育成するために、総合的科目を設ける。 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで、様々なデータを処理・分析する力を育成するために、数理情報系科目を設ける。 6) 社会基盤技術を支える電気・電子・情報工学に関連する知識・理論を利用し、課題解決する力を育成するために、電気・電子系工学科目を設ける。 7) 社会基盤技術を支える電気・電子・情報工学に関連する知識・技術を活用し、多面的視点から社会の課題に取り組む力を育成するために、電気・電子系工学実験を設ける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.sasebo.ac.jp/about-us/admission-policy/）
（概要） 電気電子工学科では、次のような人材を求めます。また、4年次編入学の場合は以下に準じます。 1) 自然現象に対して好奇心が強く、ものづくりの好きな人 2) 電気電子工学に興味をもち、電気電子工学に関する専門知識と技術を習得したい人 3) 基礎学力を有し、それらを活用して論理的に思考し、表現できるようになりたい人 4) 技術者として人類の幸福に貢献したり国際的に活躍したい人

学部等名 電子制御工学科
教育研究上の目的(公表方法:https://www.sasebo.ac.jp/kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikannsurukisoku.pdf)
（概要） 一 情報通信系，電気電子系，機械制御系の基礎科目の習得を通して，電子情報・制御系技術者としての基礎能力を養成する。 二 ソフトウェアや電子制御システムの理解を通じて，コンピュータや電子回路技術を応用した自動化システム・ロボットシステム・知能化システムのデザイン能力を養成する。 三 情報処理や工学実験などの実験実習を通して実践力を育み，卒業研究では自学自習能力の向上とともに，問題解決能力および技術開発能力を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.sasebo.ac.jp/about-us/diploma-policy/）
（概要） 次に示す能力を修得し，規定の基準を満たした学生に対して，卒業を認定する。 1) 科学に関する基礎を理解し，計算あるいは説明することができる。 2) 論理的に思考し，意見をわかりやすく日本語および英語で表現することができる。 3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち，他者と協働することができる。 4) 幅広く自ら学び・考え，地域と世界の課題に対して積極的に取り組むことができる。 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで，様々なデータを処理・分析できる。 6) 安心・安全な情報化社会を創出するデータサイエンス，および，電子制御技術に関連する知識・理論を課題解決に利用できる。 7) 安心・安全な情報化社会を創出するデータサイエンス，および，電子制御技術に関連する知識・技術を活用し，多面的視点から社会の課題に取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.sasebo.ac.jp/about-us/curriculum-policy/）

(概要) 国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラムに準拠した体系的なカリキュラムを構成する。 各科目の到達目標・授業方法・授業計画・評価方法を Web シラバスにより公開し、学修の成果は、後に定める基準により評価する。 1) 科学に関する基礎を理解し、計算あるいは説明する力を育成するために、数学・自然科学系科目を設ける。 2) 論理的に思考し、意見をわかりやすく日本語および英語で表現する力を育成するために、人文科学系科目を設ける。 3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち、他者と協働する力を育成するために、社会科学系科目を設ける。 4) 幅広く自ら学び・考え、地域と世界の課題に対して積極的に取り組む力を育成するために、総合的科目を設ける。 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで、様々なデータを処理・分析する力を育成するために、数理情報系科目を設ける。 6) 安心・安全な情報化社会を創出するデータサイエンス、および、電子制御技術に関連する知識・理論を利用し、課題解決する力を育成するために、情報系工学科目を設ける。 7) 安心・安全な情報化社会を創出するデータサイエンス、および、電子制御技術に関連する知識・技術を活用し、多面的視点から社会の課題に取り組む力を育成するために、情報系工学実験を設ける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.sasebo.ac.jp/about-us/admission-policy/）

(概要) 電子制御工学科では、次のような人材を求めます。また、4年次編入学の場合は以下に準じます。 1) 自然現象に対して好奇心が強く、ものづくりの好きな人 2) コンピュータやロボットに興味をもち、情報や電子制御システムに関する専門知識と技術を習得したい人 3) 基礎学力を有し、それらを活用して論理的に思考し、表現できるようになりたい人 4) 技術者として人類の幸福に貢献したり国際的に活躍したい人

学部等名 物質工学科
教育研究上の目的(公表方法:https://www.sasebo.ac.jp/kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikannsurukisoku.pdf)
(概要) 一 有機化学系、無機化学系、分析化学系、化学工学系および生物工学系の基礎科目の習得を通して、化学・生物系技術者としての基礎能力を養成する。 二 機能材料学や分子生物学などの分野の理解を通じて、化学および生物工学領域における課題探究能力を養成する。 三 物質化学実験により実践力を育み、卒業研究により自学自習能力の向上とともに、課題解決能力および技術開発能力を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.sasebo.ac.jp/about-us/diploma-policy/）
(概要) 次に示す能力を修得し、規定の基準を満たした学生に対して、卒業を認定する。 1) 科学に関する基礎を理解し、計算あるいは説明することができる。 2) 論理的に思考し、意見をわかりやすく日本語および英語で表現することができる。 3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち、他者と協働することができる。 4) 幅広く自ら学び・考え、地域と世界の課題に対して積極的に取り組むことができる。 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで、様々なデータを処理・分析できる。 6) 生活を豊かにする物質をうみだす応用化学、および、バイオテクノロジーに関連する

知識・理論を課題解決に利用できる。 7) 生活を豊かにする物質をうみだす応用化学, および, バイオテクノロジーに関連する知識・技術を活用し, 多面的視点から社会の課題に取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.sasebo.ac.jp/about-us/curriculum-policy/) (概要) 国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラムに準拠した体系的なカリキュラムを構成する。 各科目の到達目標・授業方法・授業計画・評価方法を Web シラバスにより公開し, 学修の成果は, 後に定める基準により評価する。 1) 科学に関する基礎を理解し, 計算あるいは説明する力を育成するために, 数学・自然科学系科目を設ける。 2) 論理的に思考し, 意見をわかりやすく日本語および英語で表現する力を育成するために, 人文科学系科目を設ける。 3) 多様な文化・価値観を尊重する倫理観を持ち, 他者と協働する力を育成するために, 社会科学系科目を設ける。 4) 幅広く自ら学び・考え, 地域と世界の課題に対して積極的に取り組む力を育成するために, 総合的科目を設ける。 5) 情報セキュリティの必要性を認識したうえで, 様々なデータを処理・分析する力を育成するために, 数理情報系科目を設ける。 6) 生活を豊かにする物質をうみだす応用化学, および, バイオテクノロジーに関連する知識・理論を利用し, 課題解決する力を育成するために, 化学・生物系工学科目を設ける。 7) 生活を豊かにする物質をうみだす応用化学, および, バイオテクノロジーに関連する知識・技術を活用し, 多面的視点から社会の課題に取り組む力を育成するために, 化学・生物系工学実験を設ける。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.sasebo.ac.jp/about-us/admission-policy/) (概要) 物質工学科では, 次のような人材を求めます。また, 4 年次編入学の場合は以下に準じます。 1) 自然現象に対して好奇心が強く, ものづくりの好きな人 2) 化学や生物に興味をもち, 物質工学に関する専門知識と技術を習得したい人 3) 基礎学力を有し, それらを活用して論理的に思考し, 表現できるようになりたい人 4) 技術者として人類の幸福に貢献したり国際的に活躍したい人

学部等名 複合工学専攻
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.sasebo.ac.jp/kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikannsurukisoku.pdf) (概要) 一 工学の基礎および専門分野に関する知識を教授し, 創造性豊かな応用力を養成する。 二 地球的視点でものごとを考える素養および能力と, 科学技術が自然や社会に及ぼす影響を理解できる人間としての倫理観を養成する。 三 日本語による技術的な内容の説明・討論ができる能力と国際社会を意識した英語によるコミュニケーション基礎能力を養成する。 四 他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識を教授し, 複合化・高度化した工学分野について複眼的な課題探求能力と問題解決能力を養成する。 五 自主的・継続的に学習でき, 協調して行動できる能力を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.sasebo.ac.jp/about-us/diploma-policy/)

(概要) 複合工学専攻は、グローバル化した社会において、高度化、複合化した工学分野の諸問題を解決して「もの創り」を行うために、各専門分野（機械工学、電気電子工学、情報工学、化学・生物工学）について深い専門性を養いつつ、先進的な他の専門分野の知識と技術も身につける複合的な教育を行うことにより、複眼的な問題解決能力を備えた創造性豊かな、世界に通用する「もの創り技術者」を育成する。このような人材育成を達成するために、本校に在籍し、所定の単位を修得し、かつ、以下のような能力を身につけた学生に対して、修了を認定する。 (A) 工学の基礎および専門分野に関する知識を身につけ「もの創り」に応用できる。 (B) 地球的視点でものごとを考える素養および能力と、科学技術が自然や社会に及ぼす影響を理解できる人間としての倫理観を有する。 (C) 日本語による技術的な内容の説明・討論ができ、更に国際社会を意識した英語によるコミュニケーション基礎能力を有する。 (D) 他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識を身につけ、複合化・高度化した工学分野について複眼的に課題探求や問題解決ができる。 (E) 自主的・継続的に学習でき、学内外の人々と協調して行動できる。 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.sasebo.ac.jp/about-us/curriculum-policy/）
(概要) ディプロマ・ポリシーにおいて掲げた能力を育成するために、高度科学技術の中核を担う専門職業人としての教養と専門基礎知識を有する技術者の養成を以下の内容で行う。 1) 理数系の基礎・応用力、豊かな教養と人間性、国際性を育むための数学（数理科学）や一般化学などの共通基礎科目および現代物理などの専門基礎科目 2) 地球的視点と技術者倫理に関する科目：日本語表現法、総合英語、応用コミュニケーションなどの語学教育により国際的に通用するコミュニケーション能力を養う科目。産業経済と技術者倫理、環境論、国際関係論などにより地球的視野で技術と社会の共生を追求しグローバルな視点をもつ技術者を育成する科目 3) 課題解決能力育成科目：技術者総合ゼミ、総合創造実験、総合創造演習などにより4つの系の専門分野をコラボレートし、システム創成能力と複眼的な問題解決能力を養う複合科目。特別研究などにより、基礎・専門知識や技術を活用して自ら課題を探求し解決できる能力、自主性や協調性、等を総合的に育成するための科目 4) 各工学系および産業数理技術者育成プログラムの、基礎・専門に関する知識と技術を習得する専門科目 入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.sasebo.ac.jp/about-us/admission-policy/）
(概要) 専攻科複合工学専攻では次のような人材を求めます。 1) 科学と工学の基礎的学力を十分身につけている人 2) 社会性と倫理観を身につける意欲を持っている人 3) 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人 4) 複眼的かつ実践的能力を身につける意欲を持つ人 5) 地域及び国際社会の発展のため、技術者として自主的に行動する意欲を持つ人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.sasebo.ac.jp/about-us/kyouiku-joho/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
基幹教育科	－	7 人	8 人	6 人	0 人	0 人	2 1 人
機械工学科	－	5 人	3 人	0 人	3 人	0 人	1 1 人
電気電子工学科	－	3 人	4 人	1 人	2 人	0 人	1 0 人
電子制御工学科	－	7 人	2 人	1 人	1 人	0 人	1 1 人
物質工学科	－	5 人	4 人	0 人	1 人	0 人	1 0 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
		2 4 人					2 4 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.sasebo.ac.jp/collaboration/seeds/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
年に4回程度開催され、他機関より講師を招いての授業改善、学生支援、ハラスメント、情報セキュリティ等に関する講演等を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械制御工学科	45人	45人	100%	45人	45人	100%	人	人
機械工学科	人	人	%	160人	165人	103.1%	人	1人
電気電子工学科	45人	45人	100%	205人	218人	106.3%	人	1人
情報知能工学科	45人	45人	100%	45人	45人	100%	人	人
電子制御工学科	人	人	%	160人	166人	103.8%	人	1人
化学・生物工学 科	45人	45人	100%	45人	45人	100%	人	人
物質工学科	人	人	%	160人	172人	107.5%	人	人
複合工学専攻	16人	25人	156.3%	32人	50人	156.3%	人	人
合計	196人	205人	104.6%	852人	906人	106.3%	人	3人

(備考)
令和7年度改組により、機械工学科、電子制御工学科、物質工学科は令和6年度をもって学生募集を停止している。

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	37 人 (100%)	9 人 (24.3%)	28 人 (75.7%)	0 人 (0%)
電気電子工学科	37 人 (100%)	9 人 (24.3%)	27 人 (73.0%)	1 人 (2.7%)
電子制御工学科	40 人 (100%)	12 人 (30%)	28 人 (70%)	0 人 (0%)
物質工学科	38 人 (100%)	24 人 (63.2%)	14 人 (36.8%)	0 人 (0%)
複合工学専攻	28 人 (100%)	9 人 (32.1%)	19 人 (67.9%)	0 人 (0%)
合計	180 人 (100%)	63 人 (35%)	116 人 (64.4%)	1 人 (0.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【進学先】				
(本科) 佐世保高専専攻科・帯広畜産大学・新潟大学・東京農工大学・筑波大学・法政大学・豊橋技術科学大学・京都工芸繊維大学・京都大学・長岡技術科学大学・徳島大学・広島大学・岡山大学・九州大学・九州工業大学・熊本大学				
(専攻科) 北海道大学大学院・東京科学大学情報理工学院・大阪大学大学院・北陸先端科学技術大学院大学・会津大学大学院・九州工業大学大学院・九州大学大学院				
【就職】				
(本科) TME S (株)・旭化成(株)・三菱電機(株)名古屋製作所・ダイキン工業(株)・(株)日立ビルシステム・(株)SUMCO・アマゾンジャパン(同)・サントリー(株)・第一三共ケミカルファーマ(株)ほか				
(専攻科) 中外製薬工業(株)・東京エレクトロン(株)・デンカ(株)・(株)トヨタシステムズ・富士電機(株)ほか				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
各授業科目担当教員が、ウェブシラバスを用いて授業計画を作成し、ウェブサイトにて公表している。
https://www.sasebo.ac.jp/department/syllabus/

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 佐世保工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則において具体的な基準等を定めている。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要なとなる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気電子工学科	167 単位	有・無	単位
	電子制御工学科	167 単位	有・無	単位
	物質工学科	167 単位	有・無	単位
	複合工学専攻	62 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.sasebo.ac.jp/about-us/kyouiku-joho/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	63,050～ 70,750 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 教科書代 約 45,000 円 学生会費 16,500 円 寄宿料（寮生のみ） 7,700 円
	電気電子工学科				
	電子制御工学科				
	物質工学科				
	複合工学専攻	234,600 円	84,600 円	46,550 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 教科書代 約 45,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者である入学者については、入学の手続きの際に申し出の書類の提出があれば、日本学生支援機構での審査結果が出るまで入学料、授業料の徴収を猶予する。また、その他の入学者についても徴収猶予の申請があり、学内で認められれば半年程度徴収を猶予している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） ・各学科で組織的に適切な進路指導を行うとともに、キャリア P B L 教育を柱とした本校独自のキャリア教育システムを構築し、学生の主体的なキャリアデザインを支援している。また、進路に係る企業情報の提供と同時に、キャリアコーディネータによる就職関連の相談と面談支援を行っている。 ・低学年からキャリア教育を充実させ、学年毎に講演会や講習会を企画し、将来の動機付けを行うとともに、産学連携コンソーシアム（西九州テクノコンソーシアム；NTC）との提携による学外授業・体験等を通して、明確な職業観を持った技術者の育成を図っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 3名の臨床心理士・公認心理師によるカウンセリング（月8日程度）およびスクールソーシャルワーカーによる学生サポート（月8日程度）を実施している。状況に応じて、担任・保護者・学科と連携して対応する。年に4回の学生アンケートや合理的配慮の検討を行う。発達障害や障害児の就学について専門家から助言を受けたり、精神科医に相談することもある。また、教職員の発達障害、身体障害およびハラスメントへの理解を深めるため、メンタルヘルスや学生相談技法などに関する研修会への積極的な参加を促す。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.sasebo.ac.jp/about-us/kyouiku-joho/
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	G142110111285
学校名（〇〇大学等）	佐世保工業高等専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園等）	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		72人（ ）人	71人（ ）人	75人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	36人	37人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	18人	18人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				75人
（備考）				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	—
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	—
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	—	—
計	人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	人	前半期	後半期
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	—	—

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	13人	—
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	—	0人
計	人	13人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。